

## 現在の生活様式からみた母親の諸問題

研究第5部 植松 治子  
 江湖 山孝世  
 谷崎 紗恵子

近年教育ママとか育児に対して過保護的などといわれている現代の母親の家庭生活はどのように行われているのだろうか。幼稚園園児を持つ母親を中心として、われわれの幼稚園および、地域環境の似通った近隣の幼稚園二箇所を対象にして調べてみることにした。

調査対象は、東京都・千葉・神奈川の幼稚園児の家庭250家族で、これらの家庭の所在地域は何れも住宅街にあり、父兄の学歴も、環境的にも比較的似通い、職業も中堅サラリーマンといった境遇である。

調査方法は、昭和44年2月9日、13日を指定し、所定の「母の生活調査記入表」を作成して、各幼稚園の担任に依頼し幼児個人個人に持ち帰らせ、母親に記入してもらう方式をとった。

調査項目は過去の調査様式にならって、次の通りとした。

### 母の生活調査記入表

1. 同居家族について（小項目については略す）
  - (1) 全部で何人ですか（            ）
  - (2) 満2才までの乳児は（            ）
  - (3) 幼稚園保育所に通っていない幼児（            ）
  - (4) 幼稚園保育所に通っている幼児（            ）
  - (5) 小学校以上に通っているもの（            ）
2. 同居雇用人 女（    ） 男（    ）
3. 住所
4. 2月13日の1日の母の生活
5. 午前5時～正午 午後1時～12時
6. 記入の仕方
  - (1) 記入用紙は、30分毎に区切り点線が入れている。起床から就床までのことをその時間の下に書く。
  - (2) 記入例。
    - (a) 起床、身仕度、入浴、就床、病床、午睡（食事前後の仕事の時間を入れて）洗濯・掃除・裁縫・買い物・子供のお守り・看護・来客・訪問・外出（なるべく用件をいって）ラジオ・テレビを見聞きする。新聞を読む、雑誌を読む、読書（単行本）映画・芝居・その他・母のその日の生活をできるだけくわしく書き入れる。

### 調査の結果

調査表250枚に対し回収実数160枚で、回答率は約60%であった。

同居家族の構成状態について

#### (1) 同居家族数

第1表 家族人数

年度	2	3	4	5	6	7	8	
昭和27年度	1.1	3.8	11.4	21.1	22.7	14.1	9.7	%
昭和44年度	3.1	11.4	35.1	16.7	12.4	7.4	3.1	%

「全部で何人ですか」の問いに対する答えは、第1表の通りになるが、現代の家族人数は昭和27年に調査した時に比べて減少傾向を示していることがわかる。すなわち昭和27年度には、5人以上の家族構成が全体の50%以上だったのに対し、昭和44年度には逆に5人以下の家族構成が全体の50%以上を示した。これは、核家族現象を如実に物語っているといえよう。

#### (2) 満2才までの乳児数（第2表）

第2表 乳児数

年度	人数	なし	1	5
昭和27年度		54.6	43.8	1.6
昭和44年度		77.9	21.6	0.5

第2表は現在、ひとりの子どもを幼稚園に通わせている母親が、一番手のかかる乳児をかかえているかどうかを示すものである。表からわかることは、園児の母親の大半は乳児をもっておらず、時間的にもかなり余裕があるものと思われる。これは現代の母親の時間の使い方に少なからず影響を及ぼしているものと思われる。

#### (3) 幼稚園以外にお稽古に通っている幼児

過去においては幼稚園以外にお稽古に通っている幼児がいるかどうかについての調査はしなかったが、今回はこれを行ってみた。この結果次のようなことがわかつ

た。お稽古に通っている幼児は、全体の34.5%であった。

〔母の1日の生活〕

配布した調査表に記入された事項を整理すると以下の項目になる。すなわち

1. 一般的なものとして

起床、就床の時刻、食事（朝食夕）、掃除、洗濯、裁縫、買物、入浴、来客、外出、などである。

1. 主婦の起床、就床、及び睡眠時間

第3表により主婦の起床及び睡眠時間をみてみよう。

第3表

	過 去	現 在
起床時間	5:00~5:30	6:30~7:30
就床時間	10:00~11:00	11:00~12:00
睡眠時間	6:30~7:30	7:00~8:00

起床、就床について過去と現在を比較すると、時間のずれがみられる。現在は、夜深しの朝寝坊という傾向がみられる。過去においては、5時から5時30分に起床し、就床は、10時から11時になっている。これにひきかえ、現在の母親は、6時30分から7時30分に起床、就床は、11時から12時になっている。睡眠時間は、6時間30分から7時間30分に対し、現在の母親は、平均7時間から8時間で30分のずれがある。現在30分ほど延長している。

2. 食事に要した時間

朝食1時間、昼食54分、夕食2時間20分となり、約4時間を食事に要していることになる。

3. 掃除に要した時間は平均約50分

4. 洗濯に要した時間は平均約48分

5. 買物に要した時間は平均1時間10分

6. 入浴に要した時間は平均約48分

第4表 食事に要した時間

時 間	0	0.5	1.0	1.5	2.0	2.5	3.0	3.5	4.0	4.5	5.0	5.5	6.0	6.5	7.0	外食	略	不明	計	
朝食	人 員		35	73	35	1											1	14	159	
	延 時間		17.5	73	52.5	2														145
昼食	人 員		46	44	18	3										18	5	25	159	
	延 時間		23	44	27	6														100
夕食	人 員		4	16	18	41	37	13	10	3							1		16	159
	延 時間		2	16	27	82	92.5	39	35	12										305.5
通計	人 員		1	0	1	2	15	23	12	28	22	14	8	4	3	1		25	159	
	延 時間		0.5	0	1.5	4	37.5	69	42	112	99	70	44	24	19.5	7				530

7. 来客に要した時間は平均約4時間

8. 外出に要した時間は平均約1時間18分

9. 就労に要した時間

就労者の通計は17名になり全体の9%で、割合は僅少である。就労時間も平均4時間20分である。

特記すべき点として、掃除に要した時間が、昔は平均約2時間であったのに、現在では、平均約50分。大体一日一回の家庭が多く、洗濯と平行して行っている傾向がみられる。

。「裁縫」に要した時間は、昔は、平均約2時間費したが、現在では平均約1時間になっており、裁縫に代り、編み物、手芸が目立っている。

。「買物」に要した時間は、平均約1時間30分。但し、外出帰りにすませる買物が多い。

。「教養」に要した時間は、テレビ：約1時間12分、新聞：約26分、ラジオ：約30分、読書：42分になっている。

。「レクリエーション」に要した時間は、約1時間36分。

第5表 その他の家事

時間	種類	0.25	0.5	1.0	1.5	2.0	2.5	3.0	計
身 じ た く		65	55	1					13
雑 談		4	15	17		4			40
家計簿・日記			11	2					13
手 紙			4	1					5
整 理・整 頓			2						2
ガラスみがき		1							1
美 容 院									1

植松他：現在の生活様式からみた母親の諸問題

○その他は、第5表の通りである。

2. 就労的なものとして

第6表

種 類	人数	%	備 考
事 務	2	12.50	自宅で事務をとる
病院勤務	3	18.75	開業医の自宅で手伝う
店	3	18.75	パート的に家事の合間にする
稽古事教授	2	12.50	華道・手編み
研 究 所	1	6.25	
洋 裁	1	6.25	
翻 訳	1	6.25	
製 作(絵)	1	6.25	夜のあいた時間に1時間ほど
法律事務所	1	6.25	
不 明	1		
計	16	100.00	

勤め、店番、教授、其他、過去の調査の時よりも仕事の幅は拡がり、より社会的になっている。

3. 教養娯楽的なものとして

この結果をみると、ドライブ(20.45%)、散歩(18.18%)、おけいこごと(11.36%)、スキー(11.36%)、と幅広い娯楽の傾向になっている。すなわち、第7表(1)の如くである。これを過去の母親の教養娯楽の内容と比較すると、過去に於いてはせいぜい、ラジオ、新聞を読む、続いてレコード、読書(小説類)となっており、内

第7表

(1) レクリエーション

種 類	人 数	%
ド ラ イ ブ	9	20.45
散 歩	8	18.18
お け い こ	5	11.36
ス キ ー	5	11.36
展 示 会	3	6.82
遊 園 地	3	6.82
公 園	3	6.82
ハ イ キ ン グ	2	4.55
つ り	1	2.27
アイススケート	1	2.27
自 転 車 乗 り	1	2.27
ゴ ル フ	1	2.27
観 劇	1	2.27
自 動 車 練 習	1	2.27
計	44	100.00

(2) 特に表われた項目(主婦の稽古)

種 類	人数	%	備 考
ピ ア ノ	10	28.57	ピアノの稽古に行く人の他に自分で練習している人が多い
三 味 線	2	5.71	
日本舞踊	1	2.86	
バ レ ー	1	2.86	
華 道	3	8.57	
習 字	3	8.57	自分でやっている方が含まれる
ペ ン 字	1	2.86	この方も自分でやっている方です
編 物	5	14.28	
手 芸	2	5.71	手芸講座
ス ポ ー ツ	2	5.71	体操を習いに出かける方ともう1人は不明
自 動 車	1	2.86	免許取得中
不 明	4	11.43	お稽古に行っているが詳細が書いていない人
計	35	100.00	

容面での差が目立つ。

第7表(2)は、娯楽の中でも特に現代的傾向として目立った項目、すなわち、主婦の稽古について掲げた。

4. 育児的なものとして

第8表

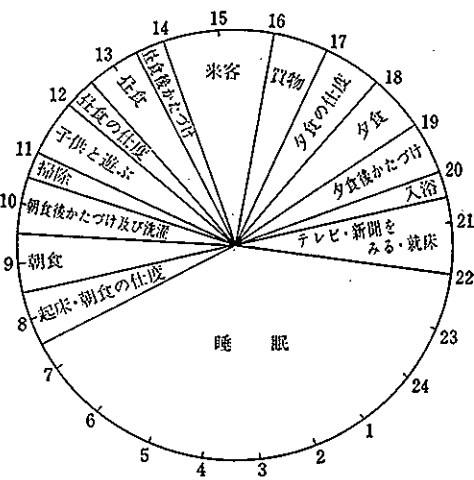
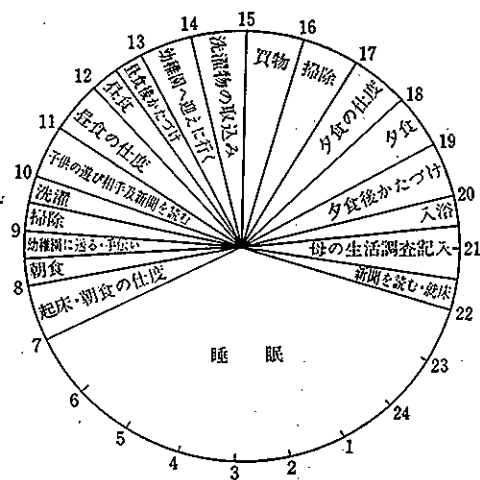
昭和27年(1)

項 目	総 人 数
子 授	67
お 八つの仕度	17
添 寝	28
学 習 指 導	32
其 他	24
	6

昭和44年(2)

項 目	日(人)	平日(人)	総人数(合)	総時間(時間)	
				総時間(時間)	平均時間(時間)
子 授	13		13	24.50	1.50
お 八つの仕度	2	2	4	21.50	7.00
添 寝	12	39	51	25.20	0.40
学 習 指 導	64	96	133	56.50	0.50
其 他	15	20	35	70.40	3.30
	39	50	39	95.30	2.00
	14	18	82	16.50	0.5
		49	49	23.50	0.30
		103	103	112.20	1.50
		36	50	28.20	0.30
	5	7	12	14.20	1.50
	8	6	14	11.00	1.50
	1	3	4	5.50	2.00
		11	11	19.00	1.40
	11	24	35	22.00	0.55
	3		3	4.00	1.20
	12		12	4.45	0.25
	3		3	0.20	0.50

第1図 母の1日 1例(その1)



第9表 母の1日 1例(その2)  
(24時間の区分した諸用時間)

項	目	時	間
睡	眠	7時間	30分
食	事(朝)	1時間	
	(昼)	54分	
	(夜)	2時間	20分
掃	除	50分	
洗	濯	48分	
買	い物	1時間	10分
入	浴	48分	
来	客	4時間	
外	出	1時間	18分
子	供の世話その他(テ レビ・新聞・身仕度・ 手紙・美容院等)	3時間	22分
其	他	6時間	30分
計		24時間	

子どもの世話、授乳、お八つの仕度、学習指導、其の他となっている。

第8表(1)(2)に示すように過去現在ともに育児に携わる時間が目立っている。表の(2)の現在の調査では、特に寝かしつける、送迎、一緒に遊ぶ、おやつ準備、身仕度、手伝いが目立っている。このように、育児に携わる時間が多様に拡がり現代の母親の持つひとつの傾向をものがたっている。

最後に、母親の1日の過し方の1例をあげておこう。(第1図、第9表参照)

結 び

過去行なった母親の生活調査は、母親の健康維持のため、つまり母親の生活刷新を行なうための資料を得るためのものであった。当時は母親がいたずらに日々多忙をきわめ、生活に疲労し、このまま長期に続く場合には、母親の健康を害し家庭生活にも支障をきたす状態にあった。そこで、家庭での母親の仕事の重点は何であるか、仕事の配分、省き得る生活の無駄は何であるか、又いかにして母親としての修養と必要な休息の時間を作り出すが中心的課題であったのにひきかえ、現代の母親の生活は合理的、文化的に行われ、家庭労働ということによって母親が疲労することは皆無に近いのではなかろうか。むしろ母親に余暇が出来て、そのための問題が出てきているのではないだろうか。すなわち、母親の生活が育児、就労、修養、レクリエーションなどに変わってきている中で見逃せないことは、育児的な時間、その中で比較的多いのは通園の送迎、添寝、幼稚園以外のお稽古事に連れて行くことなどである。就労ということでは、主婦の仕事や内容が過去に比べて幅が広がり多様になっている。

また、生活の補充よりも母親自身が自己の才能を伸ばすという傾向がみられる。第6表に示すように、社会的な仕事に携わるものも少なくないようである。修養に関しては、主婦の余暇利用の生活の一部として、お稽古事が目立っており、これは過去の主婦の生活にはみられなかったことである。第7表(2)にみられる内容も多様で個性的様相である。レクリエーションについては、特に

日曜日などは、第8表(2)のような行動を楽しんでいるのがうかがわれる。

これらを総括すると次のようなことが目立つ傾向にある。その1つは、育児態度の中で、母親が育児に熱心なあまり子どもに過重な期待をかけてはいないだろうか。また、過去に比べて現代では時間に余裕ができ子どもにかかる時間がありあまる世話の結果、幼稚園以外のお稽古事に走ったり、添寝などをすることが多いようである。このように過保護といわれる状態が目立っているが、これは子どもの自立を欠くといったことにもつながる。また過去の調査結果には見られなかったこととし

て、母親が自己の才能を伸ばそうという積極性、あるいは余暇利用のための多様のお稽古事、レクリエーションを楽しむといったようなことである。この母親に見られる傾向は、自己充実のために熱中するのあまり、他をかえりみる余裕をなくし、幼児はともすると、放任された家庭生活を送るといった矛盾もみられる。近年家庭での育児の面で、過保護が目立つと同時に、反面親子の断絶などといわれる片鱗がここから窺われる。このたびの調査結果から、結論的なことは言えないまでも、幼稚園児を持つ母親の生活態度、こうした中での育児の両極端面を窺えたようである。

## Mothers' Problems viewed from Present Mode of Life

Dept. 5 Haruko Uematsu  
Takayo Ekoyama  
Saeko Tanizaki

The purpose of our past investigation into mothers' lives was to get materials for reforming mothers' lives to help them keep their health because in the past most mothers were kept busy every day, got fatigued, and if that condition had continued, it would have been a threat to their health, and finally caused an impediment to their home lives. Accordingly, the subjects as to the works of mothers and how to make out time necessary for their culture and recreation were the center of the discussion. At present, however, as mothers' lives are led in a rational and up-to-date way, most mothers are considered hardly to get fatigued owing to domestic works. Mothers have come to have more leisure time: they have now enough time for caring their children, getting jobs outside, for their culture and recreation. As for caring their children, mothers' most time is spent for taking and bringing back their children to and from kindergartens, or sleeping beside their children, or taking out their children for piano lesson or other activities. As for an outside job, the kind and scope for mothers' job are diversified and widened. Mothers show a tendency to get a job not for supplementing their living expenses but rather for cultivating their own abilities. Their spare times are mostly spent for taking some lesson or other, which fact was quite rare in the past. They are also enjoying many kinds of activities as recreation especially on Sundays.

In consequence, the following problems are evinced in the present investigation, though it is not a definite conclusion:

- 1) Mothers are so intent on caring their children that they are inclined to expect too much of their children and overprotect them.
- 2) On the other hand, mothers are too engrossed in developing their own abilities to care for home management, so the children are apt to be neglected or left alone.